

学校運営協議会議録

開催日時	令和7年6月10日(火) 17時30分～19時00分		
会場	北海道稚内養護学校(図書ホール)		
出席者数	学校運営協議会委員	9名	教職員 10名
出席状況	但田 勝義(育英館大学教授) 出席 今村 仁泰(萩見総合食品センター代表取締役社長) 出席 末村 哉子(稚内市立声問小学校長) 出席 木村 泰優(稚内大谷高等学校教頭) 出席 守谷 工(稚内市役所生活福祉部社会福祉課長) 出席 大久保和彦(稚内市企画総務部総務防災課防災専門官) 出席 小澤 憲明(稚内はまなす学園施設長) 出席 佐藤 勝(声問町内会長) 欠席 福澤 直也(本校卒業生保護者) 出席 花田 弘志(本校PTA会長) 欠席 柴田和千代(学校長) 出席		北原 達也(教頭) 金木 清(事務長) 平川 亮一(総務部長) 増田 朗久(寮務主任) 橋浦 杏夢(舎監) 中畑 美記(支援部進路チーフ) 宮本このみ(指導部長) 竹内 大輔(中学部主事) 福山祐太郎(寄宿舎庶務部長) 土田保奈美(寄宿舎保健地域連携部長)
	項目	概要	
	1 会長挨拶(但田勝義)	<input type="checkbox"/> 会長による挨拶	
	2-(1) コミュニティ・スクール(総務部長)	<input type="checkbox"/> 学校運営協議会の意義や本校の学校運営協議会の取組みについて、資料に基づいて、説明を行った。	
	2-(2) 学校経営方針(校長)	<input type="checkbox"/> 本校の歴史や学校概要、経営方針について、資料に基づいて、説明を行った。 教育方針では、確かな学力の育成、豊かな心の育成、健康で安全な社会生活を営むための資質や能力を育成、個々の良さを生かした可能性を最大限に引き出す教育実践、経営方針では、チーム学校づくり、地域に開かれた学校(地域とともにある学校)、質の高い指導や業務の推進、服務規律の遵守が示された。 また、ランドデザインでは、子ども達が「できた」「わかった」という喜びや充実感を味わうことで、自己肯定感を高め、学ぶ意欲を育む「わっかないスタイル」を目指すとした。	
	2-(3) 年間行事予定(総務部長)	<input type="checkbox"/> 今年度の主な行事予定について、資料に基づいて、説明を行った。	
	2-(4) いじめ防止基本方針(指導部長)	<input type="checkbox"/> いじめの解消やいじめの防止、早期発見について、資料に基づいて、説明を行った。	
	2-(5) 知的障がい理解(教頭)	<input type="checkbox"/> 知的障がいへの理解を深めるため、知的障がいのある子ども達を思い浮かべた際に印象に残っている行動、知的障がいのある子ども達が社会生活を営む上で大切だと感じることにについて、2つ	

<p>3-(1) 本校の現状（教頭）</p> <p>3-(2) 会議録作成（総務部長）</p> <p>4 校長挨拶（柴田和千代）</p>	<p>のグループに分かれて、熟議を行った。</p> <p>Aグループ～知的障がいのある子ども達に対する社会の理解不足が、彼らが社会に出る上で障壁になっている点や、実際に接することで困難さが解消されることが多くあることなど、意見が出された。</p> <p>Bグループ～こだわりやルーティンの理解（行動の表面ではなく、背後にある本人なりの倫理感や感情を理解する）や、伝え方に課題があるという認識が共有され、円滑なコミュニケーションを図る上で、周囲のサポートが不可欠であるなど、意見が出された。</p> <p>□熟議を通し、より良い支援につなげていくために、委員と教職員の共通理解を図る良い機会となった。</p> <p>□教職員の欠員状況、人材確保の難しさについて、説明を行った。職種問わず、どこも苦慮していることが伺えた。</p> <p>□UDトーク（音声認識コミュニケーションツール）と、生成AIを活用した会議録作成について、本協議会における試験的な取り組みを説明した。</p> <p>□校長による挨拶</p>
--	--